

---

## ~ knock on the wall ~

保科 郁

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

knock on the wall

### 【Nコード】

N8274C

### 【作者名】

保科 郁

### 【あらすじ】

ある日、深夜に聞こえだしたノックの音。その正体とは…！？  
ありきたりな結末かもしれないです！

もう そろそろ寝ようか…

俺がそう思った深夜1時、隣の部屋から微かな音が聞こえてきた。  
俺の部屋は205号室だから隣は206号だ。  
その音は例えるなら……かなり静かにはあるが、ノックをしている  
ような感じだった。

……なんか リズムでもとってんのか…？

そう思ったものの、耳につき 気になって仕方がない。  
…というか、はっきり言ってうざい。

俺は「うるさい！」という意味も込め、音が聞こえる壁を気持ち強  
めに叩いた。

ノックは一瞬止まったものの、再び叩かれた。  
しかも さっきより強めに。

……マジ うぜえ。

俺は苛立ち、壁を更に強く叩いたが それでもノックは止まらない。  
あまりにもウザいから、隣に文句を言いに行くことにした。

勢い込んでチャイムをならすが、住人は出てこない。  
俺は舌打ちを一つすると、もう一回 チャイムを鳴らした。

しばらくすると 扉の向こうに人の気配がし、気弱そうな男が  
ずおずと出てきた。

その男が口を開く前に 俺は怒りの声を出す。

「あんたさあ  
さつきから煩いんだよね。  
静かにしてくんない？まじで」

男は俺の勢いに怯みながらも言い返してきた。

「え！？  
何のことですか？」

「こいつ！  
惚<sup>とほ</sup>けんのかよ！？

俺の苛立ちは増し、急激に頭に血が上る。

「あゝ！？ お前ふざけんじゃねーぞ！！  
さっきからうつせーんだよ、お前の部屋」

詰め寄る俺に 男はさすがに恐くなったのか、一歩 後ずさった。

「そ、そんな事 言われても……」

まだしらを切ろうというのか、言葉を濁してきたそいつに 俺の苛  
立ちは頂点に達した。

俺はその苛立ちのままに胸倉を掴み上げようとしたが、続いた言葉  
に思わず手を止める。

「俺 さっきまで風呂入ってたんですけど……」

言われてみれば男の頭は濡れていて、玄関下にも水滴が落ちている。

え…

じゃあ、聞き間違いだったのか？？

俺は訝りながらも、男に謝罪すると部屋に戻っていった。

部屋はさっきまでの物音が嘘の様に静まり返っていた。

やっぱり、空耳…か？

俺は不思議に思いながらも、その日はそのまま眠りについた。

翌日、深夜。

再びあの音は聞こえ出した。

やっぱり幻聴じゃなかったんだ　と、思いながらも　また苛立ちが募ってくる。

隣の男が嘘をついていたという事実が、それに拍車をかけた。

もう一度　怒鳴り込んでやろうと　勢い込んで玄関を出た俺の耳に、エレベーターの到着音が聞こえた。

何気なくその方向を見ると　そこには隣に住んでいる男の姿。

思わず目を見開き　硬直している俺に、男は軽く会釈をすると　そそくさと部屋に入っていた。

俺は男の部屋の玄関が暗かった事を確認すると、静かに扉を閉め部屋に戻った。

ベッドに座って、あの音は何だったのだろう…と考え込む。  
男がしていた訳じゃないのは今ので解った。

同居人がいるのかとも思ったが、玄関からは全く明かりが漏れていなかった。

とすると、残る考えは……。

俺の頭は　ある考えを弾き出した。

幽霊…とかか！??

げえ、まじかよ　？

俺は別に幽霊なんか恐くないが、もし出るのだと知っていたら　も

つと家賃を値切ったのに…。

俺は落胆し肩を落としたが、まあ今更だ。  
別に危害を加えられている訳でもないし…と、思い直した。

それから毎日、その音は続いた。

不思議なもので、毎日聞いていると苛立ちも無くなり 何だか親近感が湧いてくる。

俺はノックに合わせて壁を叩く事が日課になった。

そんなある日。

いつもの如くノックに合わせて壁を叩いていると、一際大きく壁を叩く音が聞こえ 次いで大きな 何かが倒れるような音が聞こえてきた。

俺は驚き 聞き耳を立てたが、それ以降は何も聞こえることなく夜



の静寂が訪れた。

その日から その音は聞こえなくなった。

俺は大きな疑問と、少しばかりの物足りなさを抱えながら暮らしていたが、それは数日後のテレビニュースで解決された。そのニュースは驚くことに俺のアパートが写っていた。女性アナウンサーが神妙な面持ちで語り出す。

『はい、こちらが現場です。』

このアパートの206号室に住んでいた被疑者 は、今 誘拐殺人の疑いで警察に拘束されています。

何か情報をお持ちの 』

そこまで聞いた時、俺は背中にとてつもない寒気が走り 凍りついた。

そう…

俺が聞いていたあのノックの音は、監禁されていた女性が出してい

た 必死のSOSだったのだ。

俺はそれに全く気付かなかった。

後悔に打ちひしがれ 力無くうなだれている俺の耳に…

再び、微かな ノックの音が聞こえ出した……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8274c/>

---

~ knock on the wall ~

2010年12月18日14時20分発行